



## チケット料金 (6/24 より前売販売開始！)

一般 1,800 (1,600) 円

高大生 1,300 (1,100) 円

中学生以下 無料

ペア券 (一般 2 枚組 / 前売のみ) 3,000 円

販売先：美術館公式オンラインチケット、各種プレイガイドにて販売。ペア券はローソンチケット、イープラスのみで販売。詳細は、美術館のウェブサイトにてご確認ください。

※いずれも税込

※ ( ) 内は前売および 20 名以上の団体料金

※障がい者手帳等をご提示の方は、本人及び介護者 1 名無料 (要証明)

※学生料金でご入場の方は学生証をご提示ください

※前売チケット販売期間：2026年6月24日 (水) 10:00～9月18日 (金) 23:59

## お得なグッズ付きチケットも！

本展のメインビジュアルである山鹿清華《星座・月・ロケット》がプリントされた限定デザインの手ぬぐいと、本展観覧券 1 枚がセットになったお得なチケットです。

価格(税込)：前売 3,400 円 (会期中 3,600 円)

グッズデザイン：田中せり

販売先：ローソンチケット



※手ぬぐいイメージ

## 展覧会のサポーターを大募集！！

山鹿清華展 応援千社札 一ちょっと応援、ずっと継承—

本展では、40年ぶりの山鹿清華展を支援いただけるサポーターを募集しています。古くから祭礼や参拝の際に名を残す文化として親しまれてきた「千社札」にちなみ、支援者のお名前を「応援の証」として会場に掲示します。

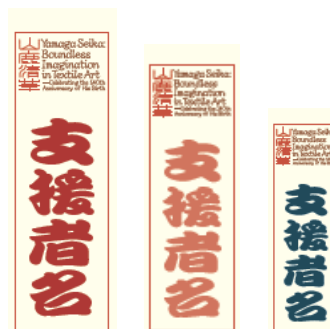
また、返礼品として展覧会招待券やオリジナル千社札シールをプレゼント。

受付期間：6月24日 (水) ～10月31日 (土)

※申込状況により、早期受付終了の場合があります。

※詳細、お申し込み方法は下記 QR コードより

お願いいたします。



※オリジナル千社札イメージ

## 関連イベント

### 講演会「近代京都における図案の創出とその背景—染織図案を中心に」

染織産業の中心地である京都では、明治期にさまざまな技術革新や近代化が推し進められました。「図案」もその一つで、製品の装飾下絵として染織をはじめ工芸分野において重視されるようになり、山鹿清華も学びました。

本講座では、近代の京都において多くの図案が生み出された背景を、描かれた図案のほか、産業や教育、出版の側面から紹介していきます。

講師：加茂瑞穂氏（京都市立芸術大学美術研究科 講師）

日時：10月3日（土）14:00～15:30（13:30 受付開始）

会場：京都市京セラ美術館 講演室（本館地下1階）

### 講演会「染織家 山鹿清華——時代を映す創造」

「用の美」から、鑑賞の対象としての芸術作品へと引き上げた染織家・山鹿清華の創造性を、明治・大正・昭和という激動の時代に照らして読み解きます。

講師：後藤結美子（当館学芸員）

日時：11月29日（日）14:00～15:30（13:30 受付開始）

会場：京都市京セラ美術館 講演室（本館地下1階）

### ギャラリートーク

講師：後藤結美子、矢橋佳音、陳鶯（本展覧会担当/当館学芸員）

日時：10月24日（土）、12月13日（日）14:00～15:00（13:30 受付開始）

会場：京都市京セラ美術館 本館 南回廊1階

そのほかにも会期中には様々な関連イベントを予定しています。

詳細は、美術館のウェブサイト、SNSにてご確認ください。

<https://kyotocity-kyocera.museum/exhibition/20260919-20261220>

Instagram：@kyotocitykyoceramuseum

X：yamaga\_seika

【ORコード】

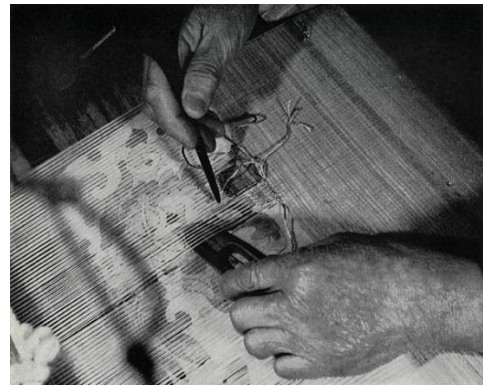


## 展覧会のみどころ

明治、大正、昭和——。日本が近代化へと急ぎ、激動の荒波をくぐり抜けた時代、伝統としての染織に革命をもたらした一人の染織家がありました。それが山鹿清華（やまがせいか／1885-1981）です。山鹿は、それまで着物や帯といった「用の美」の枠にとどまっていた染織を、絵画や建築と響き合う芸術の域へと昇華させたパイオニアでした。その創造の核となったのが独自の「手織錦」です。本展は、若き日の野心と志を乗せて出帆した出世作《和蘭陀船》（本展では織下絵を展示）に始まり、伝統的な日本画の素養に裏打ちされた革新的な図案力をもって大迫力のパノラマを生み出した飛躍期、困難な時代を経てたどり着いた晩年の平和への強い希求まで、山鹿の軌跡をあますところなく紹介する待望の回顧展です。



《星座・月・ロケット》1958年、京都市美術館蔵



写真画像出典：『手織錦 山鹿清華作品集』（1972年、光琳社出版）

## 展示構成

### プロローグ 山鹿清華とはなにか——《和蘭陀船》、志を乗せた出帆

京都の工芸界の第一線で活躍した大家であるにもかかわらず、1985年の「近代染織の創始者：山鹿清華」展以来、その名と作品を総覧する機会はほとんどなく、現在を生きる多くの人々にとって、山鹿は「未知の作家、かもしれません。

1927年、新設されたばかりの帝展・美術工芸部門に出品され、満場一致でみごと特選に選出された《和蘭陀船》織下絵の展示から、本展をスタートし、山鹿が生涯をかけて挑んだ壮大な航海の船出とします！



《和蘭陀船》織下絵 1927年、京都市美術館蔵

### 1章 指先で描く——手織錦の世界

山鹿清華の代名詞である「手織錦」は、彼の造語です。それは、技法を指す言葉ではなく、山鹿の織物の制作プロセスが他の染織品と異なっていることに由来します。多くの染織品が高度な分業体制でつくられるのに対し、手織錦は、図案の構想から下絵制作、糸の選定、そして織り上げに至るまでの全工程を一貫して一人の作家が手がけています。

色や糸の選択を自由にコントロールし、従来の染織の枠を超え、織りの技法そのものによって絵画のような豊かな色彩や立体的な表現を創り出した——。これこそが、山鹿清華が染織芸術のパイオニアと呼ばれるゆえんです。

本展のメインビジュアルである、高さ3メートルを超える大作《星座・月・ロケット》をはじめ、本章では山鹿の主題選択のユニークさと、素材選択の豊かさを存分にご堪能いただきます！

アーティチョーク、ポロネギなど  
珍しい野菜がたくさん！  
冷蔵庫内のひんやりとした空気感を表現するために  
ビニール製の糸が用いられています

《冷蔵果》 1932年、京都国立近代美術館蔵



《月着》 1969年、東京都現代美術館蔵  
写真撮影・大谷一郎

アポロ 11 号の月面着陸に端を発した  
宇宙ブームを旬の題材として作品に

図案化された動物たちの愛くるしい姿にも注目！

《霊長図》 1953年、神宮徴古館農業館蔵



《曲技》 1950年、樹田秋義蔵

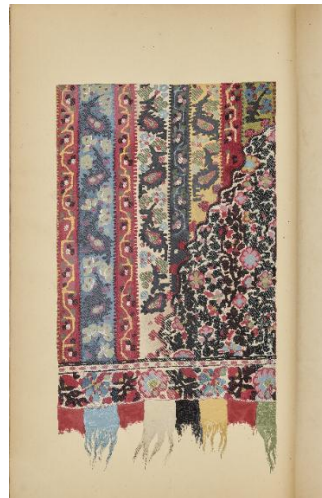
## 2章 貪欲に学ぶ——日本画、図案、そして古裂(こぎれ)の研究

若年の山鹿が培った画技とデザイン力、そしてイマジネーションの源はどこにあったのか。本章では、その飽くなき学びの精神に光を当て、山鹿を山鹿たらしめた形成期の道程を辿ります。十代で日本画を河辺華拳(かわべかきよ)に、織物図案を西田竹雪(にしだちくせつ)に学び、写生の基礎とデザインの素養を磨いた山鹿ですが、25歳のときに願い叶って日本画家で図案家の神坂雪佳(かみさかせっか)への入門を果たします。琳派をモダンに昇華させ、ジャンルを越えて活躍する先駆者として敬慕していた雪佳からの学びは、山鹿を大いに成長させたことでしょう。

もうひとつ、山鹿が「座右の師」と仰ぎ、終生探究し続けたのが古裂でした。

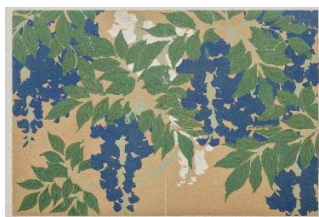
当代の美術家、図案家が名物裂を模写し、それを木版であらわした34冊組の豪華本『綾錦』では、描き手として参加するほか、自身の古裂も提供するなど、14年にわたる壮大なプロジェクトに尽力しました。

### 山鹿清華がデザインし、『綾錦』のためだけに製織した豪華な織物の装幀と、名物裂を模写した木版画



『綾錦』第一巻 1916年、京都市美術館蔵

### 師である神坂雪佳の代表作《百々世草》の展示も！



神坂雪佳『百々世草』1909-10年 より左：《狗児》、右：《藤》 いずれも美術書出版株式会社芸艸堂

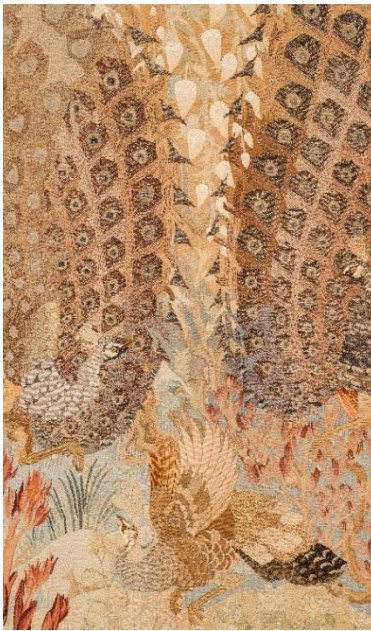
### 3章 躍動する手織錦——祭礼を彩る懸装(けそう)品の競演

山鹿清華は、伝統祭礼の懸装品を手織錦で現代化し、山や鉾にまつわる物語や由来を象徴的なモチーフで織り込みました。昭和に再興・更新された祇園祭の山鉾装飾にも関与し、「昭和の鉾」を彩る新作群の中心的作家と言っても過言ではありません。

本章では、日本三大山車祭に数えられる「祇園祭」と「長浜曳山祭」における山鹿清華の懸装品を紹介します。

祭礼とともに町の誇りとされてきた至高の染織芸術が、華やかに一堂に会します！

《萌春》部分 1929年、長浜曳山祭神戸町組孔雀山蔵



《供華》1926年、長浜曳山祭呉服町組常磐山蔵

### 4章 空間を彩る——社交場を飾るパノラマ

染織芸術というジャンルを確立した山鹿清華は、活動の幅をさらに広げ、建築・空間デザインの一部として染織を用いる仕事を数多く手がけるようになります。

特に昭和を代表する建築家・村野藤吾との協働による、都ホテル（現・ウェスティン都ホテル京都）の宴会場「稔りの間」の大壁画や、豪華客船初代「ぶらじる丸」の室内装飾はその代表作ともいえます。

徹底して細部や素材にこだわった村野との協働は、板絵や染織など山鹿の表現を近代建築へと接続し、国際的な公共空間でも通用する総合芸術の一翼に据えました。

本章では、山鹿の空間デザインの仕事を、残された作品や資料などから包括的に紹介します。

現代の空間デザイナー！昭和を代表する建築家・村野藤吾との協働



都ホテル宴会場「稔りの間」大壁画《豊穡》下絵(部分) 1939年頃 京都市美術館蔵



初代「ぶらじる丸」一等ラウンジ  
画像提供…木津重俊

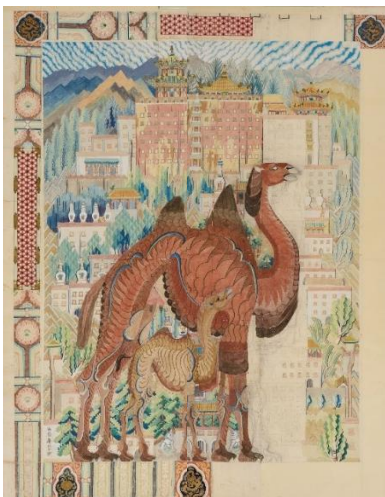
都ホテル宴会場「稔りの間」大壁画《豊穡》(部分) 1939年頃、京都市美術館蔵

エピローグ 時代を刻む——大陸の記憶、平和への希求

山鹿清華は、1981年に96歳で没しました。エピローグでは、朝鮮半島および中国大陸への旅と、そこから生まれた大作《熱河》、そして戦中から戦後へと急転した時代と作家のかかわりに目を向けます。大陸の記憶を繰り返しモチーフとした戦時期の作品群から、終戦の翌年に発表された《平和之礎》へ——。

その手織錦には激動の昭和という時代の記憶が、確かに刻みつけられています。

《熱河》織下絵 1937年、京都市美術館蔵



《児童協賛》1950年、公益財団法人日本伝承染織振興会蔵

## プロフィール

山鹿清華（やまがせいか／1885-1981）

京都市内で最古の活版印刷所を営む両親のもとに生まれる。近隣には竹内栖鳳ら当代最高の画家も居を構えており、文化的な環境で作家としての素地は育まれた。15歳で西陣の図案家に師事。作家自らの一貫制作によって生み出される「手織錦」により染織美術というジャンルを確立し、祭礼装飾、奉納懸装品、緞帳のほか、ホテルや豪華客船の室内装飾なども手掛けた。工芸の発展と後進の育成にも尽力し、1969年文化功労者に選出されている。



写真画像出典…『手織錦 山鹿清華作品集』  
(1972年、光琳社出版)

## 基本情報

タイトル：特別展「生誕140年記念 染織家 山鹿清華—宙翔ぶイマジネーション」

会期：2026年9月19日（土）～12月20日（日） ※会期中、一部展示替えあり

会場：京都市京セラ美術館 本館 南回廊1階

開館時間：10:00～18:00（入場は17:30まで）

休館日：月曜日（祝日の場合は開館）

主催：京都市、産経新聞社、読売テレビ

協賛：株式会社長谷ビル、京都薬品工業株式会社、日本管財株式会社

後援：公益財団法人函谷鉾保存会、公益財団法人祇園祭船鉾保存会、公益財団法人菊水鉾保存会、公益財団法人北観音山保存会、公益財団法人白楽天山保存会、長浜曳山祭神戸町組孔雀山、長浜曳山祭呉服町組常磐山、株式会社川島織物セルコン

お問い合わせ：京都市京セラ美術館 TEL. 075-771-4334

### 〈巡回情報〉

会期：2027年2月20日（土）～4月11日（日）

会場：東京ステーションギャラリー

主催：東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）、産経新聞社

お問い合わせ：東京ステーションギャラリー TEL. 03-3212-2485

【本展のプレス問合せ先】京都市京セラ美術館 広報 西谷・川口・廣海

E-mail：pr@kyoto-museum.jp 電話：075-275-4271